

第四回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成25年11月5日（火）午前9時半～午前11時半
2. 場 所 南区役所 3階ホール
3. 出席委員
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、栄田委員、豊田委員
松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、宮本委員
石原委員、吉村委員、田中委員（会長）
4. 配布資料
資料1－会議次第
資料2－委員名簿
資料3－「平成26年度 南区のまちづくり事業の方向性について」
（パワーポイント資料）
資料4－「南区シンボルマーク」
資料5－「南区“いきいき”フェスタ2013」チラシ
5. 次第
 - (1)開 会
 - (2)挨拶 南区長 永目 工嗣
 - (3)平成26年度南区のまちづくり事業の方向性について
 - (4)平成26年度南区のまちづくり事業について
 - (5)その他
 - (6)閉 会

6. 議事録

会 長 まずは「平成26年度 南区のまちづくり事業の方向性について」に関して、事務局からの説明をお願いします。

(事務局 「平成26年度 南区のまちづくり事業の方向性について」説明)

会 長 説明にあった4本の柱について、今ここにいる16名の委員で議論し、承認を得たい。4つの意見がそれぞれどう関わっているかについて私から説明する。資料を確認しながら、皆さんが今まで議論していた内容が確かに反映されているかどうかを確認していただいて、後半の議論に移る。

4本の柱があるが、大きく分けると、①「『南区を知ろう』（情報発信）事業の充実」・②「まちづくりを担う人材育成の充実」と、③「テーマに応じた区のまちづくり事業の推進」・④「地域の特性を活かしたまちづくり事業の推進」の2つに分かれる。①については、「南区を知ろう」ということで、「区だよりがどうなっているのか」、「もう少しまちづくり交流室にご協力いただけないか」等いろいろなご意見をいただいた。懇話会では、「まず情報発信を充実させることが大事ではないか」という意見があったし、懇話会以外のまちづくり座談会やワークショップの中でも、「いろいろな情報が手に入らないと何もできない」、「自分達がやっている活動をもっとアピールしたい」等いろいろな意見があった。以上をまとめると、①になる。

次に、②についても、懇話会やワークショップで「持続可能な担い手づくり」への意見があった。農家の後継者づくりの話や、社会的弱者と言われる方々も一緒に地域コミュニティのメンバーとして活動していただくことが大事だという話もあった。特にワークショップで若者と一緒にやりたいとの意見が多くあった。南区では子どもは増えているが、地域づくりでの子育てへの不安があるので、高齢者の方々ともっと交流を図りながらやっていけたらいいのではないかと意見があった。手厚くまちづくりをやって行きたいという声が②になっている。

次の③と④は切っても切り離せない問題で、テーマ型の地域づくりとエリア型のまちづくりをどうやって組み立てていくのかが課題だが、資料を見ていただくと分かるようにたくさんの意見が出ている。③については、防災に携わっている人の意見や子育て中のお母さん方の意見、川尻のペーロン大会や環境に関する意見などいろんなところから意見がたくさんあるので、それをひとつひとつ丁寧に全部汲み取っていき、テーマに応じた区のまちづくり事業の推進についてまとめている。

最後の④はまちづくりの基本となるもの。地域団体が取り組むまちづくり活動の支援策として、④「地域（エリア）の特性を活かしたまちづくり事業の推進」をまとめている。

前回までの懇話会とワークショップ等をまとめて、これらの4本柱を懇話会

の意見として南区へ報告したいと思うので、抜けているものや足りないものなどの意見があれば教えてほしい。

A委員 「南区まちづくりビジョン」で掲げている目指す区の姿である6つの基本目標とこの4つの柱の整合性というか、どの項目がどこに入っていくのかがわかりにくいと思う。

会 長 まちづくりビジョンでは、「1. 農と漁業を誇れるまち」、「2. 歴史・文化を育むまち」、「3. 自然と共生した住みやすいまち」、「4. みんなが健康で元気なまち」、「5. 地域ぐるみで子どもを育てるまち」、「6. 安全・安心なまち」の6つの基本目標を掲げている。①「南区を知ろう」、②「まちづくりを担う人材育成の充実」、③「テーマに応じた区のまちづくり事業の推進」は1～6すべてに共通して言えることだと思う。例えば6つの基本目標が横串だとしたら①～③は縦串としてそれぞれ「南区を知ろう」や「人材育成」を足してまちづくりを進めていくことができると思う。農漁業、歴史・文化、自然などすべてにおいて南区を知ることが大事だし、農業を受け継ぐ人材や子育てを支援する人材を育成することも大事。④「地域（エリア）の特性を活かしたまちづくり事業の推進」は地域それぞれの取り組みになるので、必ずしも6つ全部に当てはまるわけではないが、それぞれの地区が6つの基本目標のうちそれぞれ得意なことをやっていこうという事業だと考える。このような理解でよいか。

（事務局 同意）

会 長 南区まちづくり懇話会としての平成26年度南区のまちづくり事業の方向性については、この内容で決定してよろしいか。

（異議なし）

会 長 それでは、この内容をもって、懇話会としての平成26年度南区のまちづくりの方向性としてほしいと思う。具体的な話については、この後事務局より説明をいただいでから議論していきたい。

（事務局 「平成26年度南区のまちづくり事業について」説明）

会 長 先程まで議論していたのは、懇話会や座談会やワークショップで出た意見を懇話会が束ねて提案したもので、今説明があったのは、その協議や方針を元に作成した南区のまちづくり予算案となる。これについて、皆さんの意見をいただきたい。

B委員 まち歩きの改訂版に“素材公募を行い”とあるが、どのように進めて行くのか。

事務局 まち歩き手帖については、現在6つの地域ごとのものを作っており、現時点でまだはっきり決まっていないが、案としては、季節でのお薦めのコースや時間帯でのコースづくりなどを検討している。皆様にもご推薦の風景なりをいただきたいと考えているが、これについても、皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思っている。

会 長 応募の方法についてはどうか。

事務局 応募の方法は、なるべく多くの方々に応募して頂ける方法を考えたい。

C委員 ②「まちづくりを担う人材育成」の防災まちづくりリーダーの育成について、県の防災塾というのが毎年行われている。私の地区でも毎年、防災塾に派遣をしており、防災塾を受けると防災士の試験が受けられるシステムとなっている。この試験を受けるためには受験費用がかかる。費用は地区で負担している。そこで、この防災まちづくりリーダーの育成は県の防災塾とどう違うのか、県の防災塾よりもっと身近な教育を想定しているのか、南区ではリーダー育成に当たっての試験費用等の資金援助が可能かどうかについてお尋ねしたい。

事務局 防災マップリーダーについては、現在、地域版ハザードマップというのを各地域で作成していただいている。地域によっては、まだ全然取り組んでいないところもあるので、そちらに向けて「初級篇」という事で考えており、すでに作成した地域には、その後の避難訓練など「中級篇」の二本立てを考えている。試験費用については、地域の取り組みの一環ということで何か方策があれば考えてみたいと思う。

区 長 防災士は個人に属する資格なので、税金の投入は難しいと考える。

会 長 D委員は専門なので、解説をお願いしたい。

D委員 今話しに出たのは、県の「火の国防災塾」というもので、今年は4地域で行われている。防災というのは、地域によって条件が全く違って来る。たとえば、城南と川口では防災のあり方が全く違っていて、都市部と農村部でも全く違う。なので、地域ごとにその地域に合った防災士を育てなければいけない。防災塾で防災士の資格を取って基礎知識を持たれた方が地域のことを学び、地域の方と一緒にやっていくと良いと思う。災害時には高齢者や子どもや障がい者など災害時要援護者という方たちがいる。地域によって年齢構成や職業構成が変わってくるので、そういうことにも対応できるようになることが、この防災まちづくりリーダーの育成なのではないかと思う。防災というのは、自分の足元を見直して、地域の災害史を知る事で、歴史を知るという事にもつながる

ものだ。それによって自治会を単位とした、もしくは校区を単位とした避難訓練のあり方も違ってくる。

C委員 これからそういうふうになって行けば良いと思う。参考になった。

会 長 南区では、人づくりやまちづくりに「人材」という言葉を入れたことが大事だと考える。D委員が話されたように、防災は一人では出来ない。施設に頼るのではなくて、自分たちでやっていこうというところで、「人材」が重要になる。健康でないと避難も出来ないし、「防災、防災」と言っているだけでは全然まちづくりにならない。

E委員 まちづくりに協力してくれる人をどのように参画させるかが一番問題だと思う。

F委員 区民は、地震が起きて津波が発生した時に住んでいる場所がどうなるのかということを知らなければいけない。例えば、保育園や小・中学校で、災害について専門の方から話を聞くなど、区民が災害について学ぶ必要がある。そのような場を設けると、少しずつ理解ができてくるのではないか。

A委員 身近な例を挙げると、城南町の障がい者施設にひまわりの会というのがある。そこで、会員が子どもたちと一緒に防災の取り組みをしている。自治会やボランティア活動されている方々のまちづくりのネットワークシステムを防災や高齢者支援などに活かしていくことも大事だと思う。他の地区でもおそらくそのような活動をされているところもあると思うが、そのあたりを一度、南区で情報収集すると具現化できるのではないか。

会 長 ②の人材育成でもネットワークの必要性があるという意見が出たが、事務局の考えはどうか。

区 長 ネットワークはすごく大事だと思う。区のまちづくりに取り組む際にはネットワーク化ということがキーワードだったと思う。先ほどD委員が言われたように、南区では町内単位または自治会単位で自治会が担っている部分もとても多い。現在161ある町内会を一同に集める場も必要かもしれないが、まずはリーダーを養成し、そのリーダー同士がまた取り組みをシェアしていくことで、お互いの勉強になると思う。リーダー養成の中で、あるいは自治会の校区とか町のエリアの中でネットワークを取り入れたいと思っている。

D委員 ②は人材育成のための事業で、今のようなネットワークを作ろうという事業はおそらく①や③の中に入ってくるのではないか。①でまちづくり交流室をうまく活かした業務拠点、広域拠点、集える機能にし、②の方たちがまちづくり交流室単位で集えるようなものを開催していくと、わりと身近でお互いに情報を

共有できると思うので、集える機能が必要だと思う。F委員が言われたようにどのような災害が起こるのか、どの程度のものが起きるのか、ということをご各自が知っておくことによって、人的被害をどれだけ抑えられるかというのが、この防災のまちづくりの肝だと思う。地域で予防的避難ができる体制作りやそのような知識を持つことが大事だ。東日本大震災でもそういう勉強を受けた子どもたちは実際に助かって、甘く見ていた方たちは亡くなったという実例が出ているし、このような勉強を繰り返し行うと「高潮の注意報が出たから今のうちに逃げておこう」という行動に繋がるので、そのあたりはこういう機会にやっていただきたい。

G委員 過去の災害を知ることはとても大事だ。どこに高い所があって、どこが一番危ないのかというのは、過去の災害をご存知の方が一番よくわかっている。人材育成については、その行い方が重要だと考える。過去一辺倒の育成ではなくてどのようなリーダーを作りたいのか、それぞれの目的に応じた育成の方法がある。今は、団塊の世代の方で元気な方がたくさんおられるので、対象は若者だけではないと思う。どこにどういった人材があるかを考えながら人材育成を行うことが大事ではないか。先ほど出た意見を踏まえて、どのようなリーダー育成をして、どのような訓練をするのか、一人一人が防災に対しても健康に対しても意識をもてるような取り組みを期待したい。やはりネットワークは必要で、行政も健康、防災、高齢者のくらしなど全てにおいて、いろんな課がいろんな事で協力して連携していかなければいけない。

会 長 簡単なことではないかもしれないが、そのような意見があるということで、ぜひ連携していただきたい。私が心配しているのは、まちづくり交流室の負担が増えること。皆さんまちづくり交流室をすごく頼りにされているし、期待もされていると思うが、今でも相当量の業務をされていると思うので、そのあたりをまちづくり推進課長から教えて頂きたい。

まちづくり推進課長 まちづくりの際に南区役所主体で進めることはなかなか難しく、6地域のまちづくり交流室の方々と連携をしながら一体となって進めているし、今後もそのやり方でやっていきたい。やはり地域の実情を知っているのは地域の団体の方と直に接しておられるまちづくり交流室の方なので、今後とも交流室と連携を取りながら進めていきたいと考えている。

会 長 必ずしも公的なものでなくても、例えば近所の空き家を利用して、ちょっと気軽に立ち寄れるようなカフェみたいなものやそこでいろいろな事を雑談するようなものでもいいので、すべてがまちづくり交流室に集まってしまう状況を避け、緩やかに連携を持ちながらも少しずつ随所で肩代わりしていくことを考えていかないと、ちょっとしんどいのではないかなと思う。

- H委員 健康まちづくりリーダーの育成について、私の校区ではまだ取り組みを始めていない状況だが、具体的な取り組みが行われている地域では順調に進んでいると聞いている。南区全部の校区の中で現在どれだけの校区がこの健康まちづくりに取り組んでいるかを教えてほしい。
- 保健
子ども
課長 南区内 20 校区のうち、すでに健康に関する指導部会が作られた所が 4 校区あり、8 校区から今年度中には何らかの会合を持ちたいとの回答をいただいた。
「健康は個人の問題なのに、なぜまちづくりと一緒にするの？」という声をいただくが、健康は小さいお子さんからお年寄りまで全ての世代にわたって関心をもってもらえるテーマなので、地域で健康をテーマにした話し合いの場をもつことで、世代間の交流が活発になっていくし、健康をひとつのテーマにしてまちの活性化を図ってもらうことを目的としている。取り組みに対しては好意的な回答を頂いており、これからどんどん進んでいくと考える。
- H委員 私の校区でもこれから実践したいと思うし、まだ取り組みが始まっていない校区にこのような良い例があるよということを示し、指導と情報発信をお願いしたい。もう 1 つ、④のまちづくり担い手の育成について、私はその人材育成の前の段階、人材の発掘の段階で行き詰っている。まちづくりの担い手が見つければ、ここにあるように、発信力強化とか研修会実施の取り組みができるが、その担い手を見つけることが難しい。地域の集まりに消極的な人にもまちづくりをお願いするなどしなければ、同じ町内でも人間関係が希薄になるし、いざという時に困るのではないかと思うので、メインテーマとして人材育成は良いが、それ以外に人材発掘について、こういう悩みもあるということを受けて、実情とか例を教えてください。
- G委員 以前、川尻地区で福祉座談会というのをした際に、まちづくりの第一歩になるくらい、いろんな視点からいろんな意見が出て、いろんな方からいろんな情報を得ることが大事だと感じた。この人は出て来ないからで終わるのではなく、出て来るにはどうしたら良いかということを考えることが大事なのではないか。そしたら、その中からいろんなリーダーが出てくると思う。
- 会 長 ①の「南区を知ろう」というのは、まさにそういう事だと思う。自分に何が出来るかわからない、どういうことをやっているのかわからないから来ない人には、とりあえず一回やってみようよ！という呼びかけることが大事だ。私も地域のワークショップをさせて頂いたが、無目的にワークショップに参加しても良いと思う。誰かと一緒にやったことがないとか、ひとりで考えてたけれど…というような人でもいいので、何の目的でもいいから人と会うことはこれからの時代に大事なことだと思う。そういう啓発も含めて「南区を知ろう」という中に、まちづくり人の発掘を積極的にやっているということは、南区の良いところと言える。子育てでも、防災でも、教育でも、南区に住んでいることが誇

りになるように、私は良いところに住んでいると、私もまちの一部だったと気づいてもらえるようなものになれば良いと思う。

I 委員 健康まちづくりと食生活改善推進委員や 8020 推進委員との関連についてお尋ねしたい。

保健
子ども
課長 実践されているところの例でいうと、今お話された食改委員や 8020 さんなどの市民ボランティアの方たちを組織の中に取り込んで、それぞれの校区内のボランティアの方に参加していただいて、そこで話し合いを進めて実践していただいている。

B 委員 富合町は以前から健康への関心が高く、合併後も町内の 22 地区に必ず食生活改善委員や 8020 推進委員など 2、3 人の健康推進委員がいる。その中に 36 名のさわやか料理教室担当の方がいて、その方が各地区に入ってご自分の地区で料理教室などをされており、たくさんの方が集まってお話をされており、地区の活発化につながっていると思うので、こういう取り組みは是非これからも進めて頂きたい。その関係で富合校区は熊本市の中でも健康受診率などは 1, 2 を争う地区である。

J 委員 私の校区は自治協が中心となって今年度から取り組むことになり、先月南区の保健師さんと一緒に第 1 回のワークショップを開催した。食生活改善委員さんや 8020 推進委員さんや自治協に入っていないスポーツクラブや小学校の養護の先生にもお願いして取り組みを始めた。今後、どう進むかわからないが、1 度やってみると「楽しかった」という意見もあり、今後も継続してやっていけると思う。

E 委員 自治会長は、任期が 2 年なので、行政の取り組みを説明されて理解するまでに 1 年くらいかかることもあり、そのような中でのリーダー育成は時間もかかるし、難しいことも多いと思う。

会 長 自治会も大変だと思うが、継続することが大事だ。担い手が少ないという問題もあるが、若手だけではなく元気な年配の方も増えているし、新たに転入して来られる方もいるので、誰でも出来る持続可能な組織作りをしていくことが必要だ。ワークショップにしても、「来て良かった」と言う人が一人でも多くいれば、行った意味がある。

C 委員 リーダー育成に関連して、観光ボランティアガイドの養成についてはどのようにお考えか。

- まちづくり推進課長 南区としても自然と歴史文化が多いところが区の特徴だと考えている。現時点で観光ボランティアガイドの養成についての事業はないが、今後歴史文化や自然、まち歩きなどと組み合わせて計画できればと思っている。
- 会長 先ほど説明したとおり、6つの基本目標と4つの事業は縦横の組み合わせになっている。「観光」という言葉が直接出てきていないので、そういう疑問が出てくるのだと思う。南区としては、美味しい野菜を食べるツアーや歴史文化を知るような学習会や自然と共生した例えば“雁回山に登ろう”というツアーリズムといったような着地型観光をこの4本柱でやっていこうということだ。それぞれに、人材育成も必要だし、情報発信も大事だし、そういうことが観光につながっていく。個人的には着地型観光は重要だと考えるので、「ツアーリズム」や「観光」という言葉があっても良かったと思う。
- 区長 区役所には観光分野がセクショナルにも業務的にもないため言葉として出てきていないが、南区にとって観光は非常に重要だと考える。28年にはスマートインターができ、川尻駅・熊本駅間に新駅ができ、鉄道的にも玄関口が増え、南区から観光に入る機会が増えると思われる。その辺については、現在観光部局と連携して取り組みを始めている。その際、対外的に観光やコンベンションなどの力を借りなければいけないので、私たちもそのような所に素材を提供しながら一緒にやっていけたらと思っている。
- D委員 まちづくり事業について活発に議論してきたが、よくありがちな事で、事業をすることもしくはイベントをすること自体が目的になってしまう場合が多い。なぜ、それをするのかというその根本を忘れないようにして事業を展開しないと今日の議論が無駄になってしまうと思う。「南区“いきいき”フェスタ」にしてもフェスタ開催が目的ではなくて、何故開催するのが目的となる。それを忘れないようにして事業を進めていかなければいけない。
- A委員 ④の「地域の特性を活かしたまちづくり事業の推進」について、城南町には古くから伝わる「沈目の大蛇踊り」という伝統芸能があり、それを見た方から「地域づくりに勝るくらい必要なものだ」という声をいただいた。地域ごとに伝統芸能という「たからもの」がたくさんある。それを語り継ぐ技術や技能をもっている人がいなくなってしまう前に、これはぜひやってもらいたい。これがゆくゆくは地域づくりやまちづくりの根幹になると思う。
- K委員 伝統や芸能となると、やはりその町その町を支えておられる職人さんが重要になってくるが、職人さんも今はなかなか後継者がいない。仕事も増えて後継者も増えて、そこから、それがまちづくり、防災、人材育成などすべてにつながっていくと思うので、まずはそこから考える必要がある。

会 長 それでは、まだ議題が残っているので、そちらに移る。

(事務局 「南区シンボルマーク」と「南区“いきいき”フェスタ」について説明)

会 長 シンボルマークについては、これをご覧になった方が、「これはどうして南区のシンボルマークなんだろう？」と話題にすることが大事だ。シンボルマークは使って意味があるので、南区に住んでいる人が一人でもこのマークを見て、「これは何かな？」と考えることがまちづくりのきっかけにもなる。実は、南区シンボルマーク応募者のうち半分は子ども達だった。私は子どもたちを南区のたからものだと思うし、他区は区民以外からも公募したが、南区は純粋に区民だけに限定して 138 点の応募があったので、皆さんそれを是非プライドにもっていただいて、南区に誇りを持ってほしい。「やっぱり南区に暮らしていて良かったな！」とか、「南区っておもしろい事がいっぱいあるな！」とか A 委員が言われたように「たからものがいっぱいあるんだよ！」「それを探しにいこうよ！」というような船出のマークだと思う。皆さんに話題にして使っていただくことが、南区のまちづくりにつながるので、ご協力いただきたい。また、D 委員が言われたように、「南区“いきいき”フェスタ」もすることが目的ではなく、ここでたくさんを知ったり、たくさんの人と出会ったりすることが目的となる。準備は大変だと思うが、その先にあるものを楽しめるようなフェスタになればよいと思う。

 次回の懇話会は 2 月に交流に視点を置いた議論を予定している。誰とまちづくりをしていくのか、誰がやっていくのか、“交流”をベースにどんなことができるのかを次回への宿題にしたい。次回もよろしく願います。